

今日のトピック 最近の指標から見る米国経済（2016年9月） 年内利上げの可能性を探る展開へ

ポイント1 雇用の増勢は鈍化

景気の減速を懸念する水準ではない

- 8月の非農業部門雇用者数は前月比15.1万人増と、市場予想（同18万人増、ブルームバーグ集計）を下回りました。もっとも、3カ月移動平均は23.2万人と20万人超の水準を維持しており、景気の減速を懸念する水準ではありません。

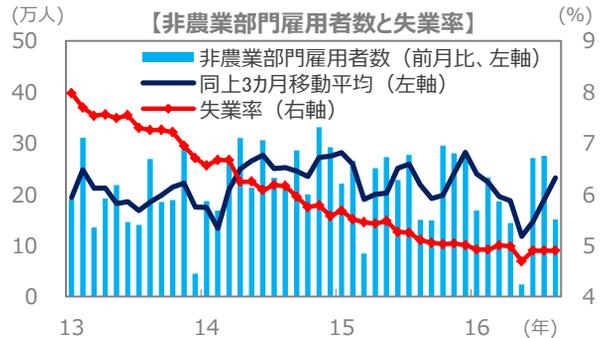
ポイント2 ISM指数は低下

強めの個人消費を受けた反動減か

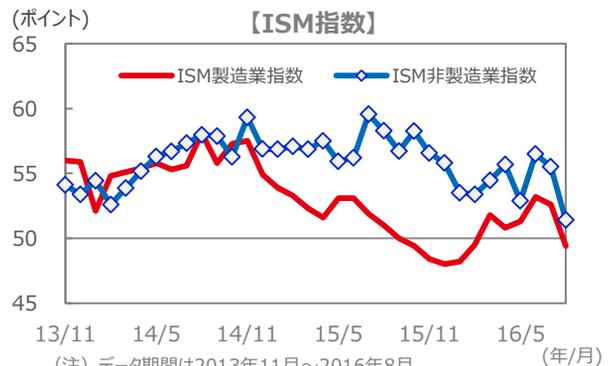
- 景気の先行きを占う際に重視されるISM指数は、8月に製造業、非製造業ともに低下しました。製造業指数は49.4と6カ月ぶりの50割れとなり、非製造業指数は51.4と6年半ぶりの水準まで低下しました。非製造業指数では小売を中心とする流通業の悪化が目立ちました。4-6月期の個人消費は前期比年率で+4.2%と基調よりも強めで推移しており、8月になってその反動が生じた可能性があります。

今後の展開 年内利上げの可能性を模索

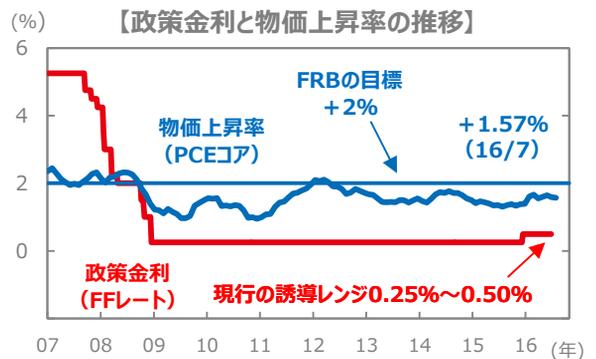
- ISM指数の低下は、9月利上げの可能性を後退させたと考えられます。ただ、今回のISM指数が示すような景況感の悪化は一時的な下振れの可能性が高いと見られます。雇用所得や消費者センチメント、金融市場などが堅調に推移していることを踏まえると、景気が急速に変調をきたしたとは考えにくいからです。
- 8月の雇用統計は、景気の減速を示唆するものではなかったことも踏まえると、米国経済は息の長い景気拡大が続いていると考えられます。引き続き年内利上げの可能性を探る展開が続く見通しです。



(注) データ期間は2013年1月～2016年8月。
(出所) 米労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データ期間は2013年11月～2016年8月。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) FFLレートは2007年1月5日～2016年9月6日。
2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年7月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年9月 5日 堅調な米国の雇用統計（2016年8月）
2016年8月22日 米国の株式市場（2016年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。